

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)／  
速水 多佳子

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

これまでの自分の学校現場での経験を生かし、現在の児童生徒の実態および小学校・中学校・高等学校で求められている教員像を踏まえて授業実践を展開する。

- ①授業内容—学生自身の教員を目指すという意識を高めた上で、家庭科の教科の特質を踏まえ、社会の変化に対応した内容を取り入れる。
- ②授業方法—教科内容の知識を深めることができるような実習、演習、模擬授業等を行い、学生が主体的に取り組むようにする。
- ③成績評価—評価の方法を明確に示すとともに、現在使用している模擬授業評価シートに改善を加え、学生の相互評価を取り入れるようにする。

#### 2. 点検・評価

・平成25年度FD推進事業の家庭コースの特別公開授業として、私が担当する「中等家庭科教育論」の授業を公開し、授業後に研究会とFDワークショップを行った。今年度は教員だけではなく学生も共に参加して、テーマ「よい教師を育てる授業とは」について協議をしたことで、学生に対しても教育実践力を培うための授業とはどのようなものかについて提案することができた。

・今年度実施した授業の工夫としては、評価方法について具体的に取り入れたことがあげられる。学校現場の家庭科教員がどのように生徒を評価し、成績に反映しているかについてを演習を取り入れて扱った。学生にとっては、これまでとは異なり、教員としての立場を改めて実感することができたようである。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ①担任する家庭コースの3年次生と長期履修学生の1年次生の学生生活や進路等の相談に応じる。
- ②担当する卒論生、修論生、外国人留学生の指導を丁寧に行う。
- ③教員採用試験対策として、学生が中心となっていて行っている勉強会に、毎週参加して指導を行う。

#### 2. 点検・評価

- ①担任する家庭コースの3年次生と長期履修学生の1年次生の個人面談を4月に実施した。学生生活や進路等の相談に乗り、その後も必要に応じて対応した。また、3年次生と長期履修学生の主免教育実習が円滑に進められるように、学習指導案や児童生徒への対応について、実習期間中のほぼ毎晩学生の相談に乗った。
- ②担当する卒論生、修論生、教員留学生の指導を丁寧に行った。ガーナからの留学生に対しては、日本の家庭科教育の理解のために、県内や県外の小中高等学校の合計8校の授業見学と児童生徒との交流の機会を計画して引率した。修論生は、学会の全国大会で口頭発表を行った。卒業生2名は、小学校教諭と小学校臨時講師となり、修論生1名は中学校家庭科教諭として採用された。
- ③教員採用試験対策として、学生主体の勉強会に毎週参加し、集団・個人面接指導を半年にわたって継続的に実施した。希望者に対しては個別に小論文指導、面接指導、実技指導を行った。また、家庭コースの学生を対象として家庭科の専門に関する勉強会を毎週開いた。参加者は、兵庫県、徳島県、広島県、岡山県、沖縄県、東京都などに合格しており、今春から教員として教壇に立つ予定である。

### Ⅱ-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ①家庭科教育に関して、学校現場を支援する研究を行う。
- ②研究の成果を学会で発表する。
- ③研究の成果をまとめて、学会誌に論文を投稿する。

#### 2. 点検・評価

- ①平成26年度に徳島県で開催される全日本中学校技術・家庭科研究大会に向けて、中学校を訪問して指導助言を継続的に行った。また、学校現場の家庭科教員からの相談に随時応じた。
- ②日本家政学会全国大会2報、日本家庭科教育学会全国大会1報、四国地区大会1報、日本教科教育学会1報の発表を行った。
- ③研究成果をまとめて投稿し、掲載が決定した。「大学生の家庭科における調理、被服製作の知識・技能の習得状況にみる課題」(日本家庭科教育学会誌第57巻1号2014年5月15日発刊予定)  
科研費の1年目の研究成果をまとめ、鳴門教育大学研究紀要第29巻に掲載された。「家庭科における教育の情報化に関する考察」(2014年3月)

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ①長期履修学生支援センターの一員として、大学院生の学生生活を支援し、主免教育実習が円滑に行われるようにする。
- ②学内の各種委員会委員として、大学の運営に貢献する。

### 2. 点検・評価

- ①長期履修学生支援センターの兼務教員として、1年次生を対象として毎週実施されている支援講座、支援演習を担当した。また、2年次生の主免教育実習の事前指導では、担当する5校の学生13名の指導案や模擬授業の指導を行い、実習期間中は中学校を数回にわたって訪問し、実習が円滑に進められるように支援した。また、「鳴門教育大学教員養成改革の軌跡」(鳴門教育大学企画戦略室編)に、長期履修学生制度についての分担執筆をした。
- ②学生総合相談室の相談員、ハラスメントに関する相談員、学術研究推進委員、教員免許状更新講習実施委員を担当した。修士課程教員養成カリキュラム研究開発委員として、研究会等に積極的に参加した。また、平成25年度実施大学機関別認証評価の面談に出席した。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- ①附属小学校、中学校の研究会に積極的に参加する。
- ②学校現場の家庭科教員の教育実践を支援する。

### 2. 点検・評価

- ①附属小学校の合同研究会(5月29日)に参加し、附属中学校第57回教育研究発表会(6月7日)で指導助言を行った。
- ②徳島県10年経験者研修の講師を担当した。(8月5日)教育支援講師・アドバイザーを5回担当した。(徳島県ものづくりコンテストの審査員、高等学校1回、中学校3回)  
徳島県、兵庫県の教員からの授業等に関する相談に随時応じた。また、県立高校にて、教員志望の高校生を対象にした講話や進路選択全般に関する講話を合計3回担当した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度の教員採用試験対策として、学生主体の勉強会で、集団面接の指導を15回、個人面接の指導を22回行った。一方的な指導とならないように、学生同士が自由に考えを述べ合い、課題に対して向き合って考えられるように配慮し、教員採用試験対策としてだけでなく教員志望の意欲が高められるようにした。自主的な集まりにもかかわらず、学生達は毎週熱心に参加しており、全国にわたって都道府県の教員採用試験に挑戦して合格するという成果をあげている。また、家庭コースの学生を対象とした勉強会の参加者からは、採用数が少ない中学校家庭科教諭に2名が採用された。

今年度は、教員としてすでに学校現場で採用されている卒業生や修了生に対して、定期的に様子を聞いたり、学校での授業や生徒指導、他教員との関係などに関する相談に随時乗り、教員生活が円滑に長く続けられるよう支援を行った。